

月刊

月刊 グラフィックサービス 令和8年10月10日発行(毎月1回発行) 通巻899号

GS

グラフィックサービス

No.899

2026

10



株式会社文成社
代表取締役社長
田村 勉さん

ジャグレート認定取得企業インタビュー

「技能の見える化」で アルバイトから正社員に

錦明印刷株式会社

巻頭言 東グラ文京支部のゆかいななかまたち
——株式会社文成社 代表取締役社長 田村 勉

連載 松谷の突き抜ける!SPACE-21 7月3日 FACE定例会レポート

PM取得
企業紹介 PM企業クローズアップ
——株式会社東海林印刷 代表取締役社長 東海林 正豊

会員企業
紹介 キラ星ジャグリスト
——有限会社 三宮印刷

NEWSと
お知らせ 9月印刷の月 業界功労者表彰
第29回 日本自費出版文化賞 受賞作決定



一般社団法人

日本グラフィックサービス工業会



- 1 ■巻頭言
東グラ文京支部のゆかいななかまたち
東京グラフィックサービス工業会 文京支部 支部長
株式会社文成社 代表取締役社長 田村 勉
- 2 ■ジャグラテスト認定取得企業インタビュー
錦明印刷株式会社
- 20 ■プライバシーマーク取得企業紹介
秋田県支部 株式会社東海林印刷
代表取締役社長 東海林 正豊
- 22 ■連載
松谷の突き抜けろ！SPACE-21
7月3日 FACE定例会レポート
- 24 ■会員企業紹介
キラ星ジャグリスト
——有限会社 三宮印刷 代表取締役社長 三宮 健司

- NEWSとお知らせ
- 6 日印産連 9月印刷の月式典
 - 7 第29回 日本自費出版文化賞 受賞作決定
 - 10 委員会報告
 - 18 ジャグラBBへGO！
 - 23 アプリスタンプラリー
 - 26 SPACE-21 全国協議会 愛知名古屋大会に向けて
 - 28 業界の動き
HOPE2026にジャグラ出展
印刷をデザインする「おかしな印刷展」
印刷革新会

- 17 雑学コラム④
- 29 事務局日誌と今後の予定

- 広告インデックス
- 11 ホリゾン・ジャパン(株)
 - 12 富士フイルムグラフィックソリューションズ(株)
 - 13 (株)モリサワ
 - 14 (株)ショーワ
 - 15 東京リスマチック(株)
 - 16 リコージャパン(株)
 - 17 (株)研美社
 - 表4 リョービMHI グラフィックテクノロジー(株)

月刊グラフィックサービス 発行趣意

月刊『グラフィックサービス』は、一般社団法人日本グラフィックサービス工業会会員、関係諸団体およびすべてのステークホルダーの皆様へ、自社の質的向上に役立ち、知恵と勇気を分かち合うことを目指し発行するものです。本会の存在意義である人間交流スペースを構築し、社会の多様な要請にタイムリーに対応しつつ、共通の経営課題を持つ会員をネットワーク化し、その交流を積極的に支援するとともに小さいことでも有利となる経営施策も発信する情報ターミナルとなることを理想とします。またその情報発信手段は誌面にとどまらず、環境に応じて多様な発信方法を検討、遂行することを責務とします。

【概 要】			
発行回数	月1回/年間12回	配布方法	・全会員へ直接郵送 ・ジャグラホームページからのダウンロード
購 読 料	ジャグラ会員は無償(会費に含む) ・希望企業、団体への有償配布		



本誌へのご意見・ご要望・記事提供は下記宛お寄せください
Eメール edit@jagra.or.jp 電話 03-3667-2271 ファクス 03-3661-9006
お手紙 東京都中央区日本橋小伝馬町 7-16 〒103-0001 (一社) 日本グラフィックサービス工業会 宛

■巻頭言

東グラ文京支部の ゆかいななかまたち

東京グラフィックサービス工業会 文京支部 支部長
株式会社文成社 代表取締役社長 田村 勉



Cover Person

2026年5月、第65期東京グラフィックサービス工業会文京支部長を拝命いたしました。株式会社文成社の田村勉と申します。これまで私はFACEや印青連など青年部を中心に参加しておりましたが、2020年4月7日の社長就任をきっかけに文京支部へも積極的に参加するようになりました。

ここで少しだけ経歴についてお話しいたします。私が文成社に入社したのは2001年7月です。それまでは約10年間、飲料メーカーの自動販売機の修理をするサービスマンでした。元々グラフィックデザインに興味があり、サービスマン時代にデザインの学校へ通い、縁あって現在の会社に入社しました。先代とは血縁関係が全くない、ただのサラリーマンから代表となりました。

以前はジャグラ・東グラなど組合には参加しておらず、存在自体もよく理解していませんでしたが、会社での自分の立場が変化するにつれ、組合にも参加するようになりました。そこで出会った仲間たちからの言葉や考え方が、今では自分にとつ

て大切な学びとなっています。若くして会社を継いだ人、私と同じ血縁関係がないところから社長になった人など、耳にすることすべてが刺激的で勉強になります。

私の所属する文京支部では、毎年支部長がスローガンを掲げ、それを基に1年間支部運営をしております。今年の文京支部スローガンは「楽しくなければ文京支部じゃない」です。

「楽しくなければ…」とは、遊びをメインにするのではなく、支部活動を通じて何か感じることに、学べることなどプラスアルファがあつてこそだと思っています。文京支部の年間活動は2ヶ月に1回の支部会と総会がメインです。そのほか、「健康を考える会」「顧問相談役会」「文京区文京博覧会(ぶんぱく) 出展」「忘年会」などのイベントがあります。

顧問相談役会では顧問と相談役をお招きし、支部員から1年間の活動を報告し、顧問・相談役からは支部への提言や近況報告をいただいております。支部の歴史を繋いできた先輩方と現執行部の交流の場を設けていることは、私にとって光栄

であり、先輩方のおかげで今があるところづく感じております。

ぶんぱくでは文京区役所内で2日間、文京区内の中小企業や産業団体等が一堂に会し、展示、実演、物販などを行います。文京支部では支部員の自社製品販売や、印刷で余った用紙や封筒などをサービス料金で販売しています。展示ブースの設営やPOP作成、販売員の配置などすべて支部員で行います。製造業の私たちにとって、直にエンドユーザーさまの声が聞ける有意義なイベントで、商売や商品開発にも役立っています。なお、ぶんぱくでの売上は材料費を除き、全額文京区社会福祉協議会へ寄付しております。

また2026年6月の第2回文京支部会では「文京支部新聞」の作成・発行を行いました。支部会内でも自社プレゼンを行っています。まだ知られていないことや、時間とともに忘れられてしまう事業内容があります。そこで業務内容だけでなく、個人の趣味や気になること、どんな仲間たちと協業しているのかを記載してもらい、業務と趣味をセットで知っ

てもらい、印象に残るようにしました。これを冊子にまとめ情報交換を行うと、新たな発見や交流が生まれました。



文京支部は、積極的に活動している支部だと思っています。これは長い支部の歴史で培ってきた伝統があるからです。この雰囲気は私が支部へ参加し始めた時から感じており、言葉では表現できないところです。またこの伝統は必ず次へ繋げなければいけないと思っています。

「楽しくなければ文京支部じゃない」そこには何事も楽しく、真剣に取り組む仲間たちがいて、この伝統・仲間たちに支えられ、私のエッセンスを少し加えて、より良い支部になることを願っております。皆さまも機会があれば是非、文京支部の支部会やイベントに参加し、この雰囲気を感じてください。お待ちしております。



ジャグラテスト認定取得企業インタビュー ～技能評価から考える障がい者雇用のあり方～

「技能の見える化」で アルバイトから正社員に

錦明印刷株式会社

DTPOペレーター技能試験「ジャグラテスト」第4期でiDesignのゴールド認定を取得した糸数麻衣子さん。聴覚障がいのある糸数さんは、DTPOペレーターとしてアルバイトをしながら知識や技術を身につけ、現在は正社員として組版を中心に幅広い業務を担っています。今回は、糸数さんが勤務する錦明印刷

株式会社（東京都千代田区）を訪問し、採用からジャグラテストへの挑戦、そして正社員へ登用され職場で頼られるDTPOペレーターになるまでの歩みについて、お話を伺いました。

糸数さんの採用と業務について

浅野 糸数さん採用の経緯についてお聞



代表取締役社長 塚田 司郎氏

ングなども、Aーを使ってかなり効率よくできるようになっています。以前なら1週間かかっていたかもしれない作業が短時間でできるようになったり、これまでは別の部署に作ってもらっていたようなツールも、自分たちで解決できるようになってきました。

樋口 どんなツールを導入されていますか？

武川 当社はGoogle Workspaceを利用し、ChatGPTも部署ごとに活用しています。こうした環境の変化によって、仕事の効率やスピードはかなり上がっています。また、コロナ禍以降、Zoomなどのオンラインツールやチャットでコミュニケーションすることが当たり前になりました。直接会話をしなくてもテキストでやり取りできますし、最近では音声をリアルタイムで文字にする技術もあります。世の中全体がそういう方向に進んできたことで、聴覚障がいのある方が働くうえでのハードルは、以前よりかなり低くなったと思います。そういう意味では、聴覚障がいのある方を正社員として採用することについても、以前ほど構える必要がなくなってきたのではないかと思います。

塚田 印刷業界では、デジタル化によって仕事のあり方そのものが大きく変わっています。以前は印刷物を作るための「前工程」としてDTPOやプリプレスの仕事がありました。現在はウェブサイ

トやランディングページ、動画、SNSなどで、デジタルメディアのコンテンツ制作まで求められるようになっていきます。また、出版社が自らデジタル印刷機を導入し、必要な部数だけ印刷するケースも出てきました。デジタルデータから印刷物を作るだけでなく、印刷物からデジタルコンテンツへ、あるいはその逆へと、仕事の領域が広がっています。そんな変化の中で、DTPOペレーターにも、従来の組版や印刷の知識だけでなく、新しい技術を取り入れていく力が求められています。

正社員登用にも繋がった ジャグラテストによる 「技能の見える化」

浅野 糸数さんがジャグラテストを受験することになったきっかけは？
武川 もともとは、本人が2023年にテレビ（NHK）でDTPOペレーター

かせください。
武川 アルバイトとして採用したのは、2014年から2015年頃だったと思います。当時は、DTPO関連の業務と、それに付随する業務を担当してもらう人材を確保するために、同じ時期に糸数さんを含めて2〜3人ほどアルバイトで採用しました。

樋口 糸数さんの当時のスキルや担当業務は？

武川 入社当時のスキルは、Illustratorを少し使ったことがあるというくらいでしたが、一般的な事務作業は問題なく対応できました。Office系のアプリケーションも普通に使えたので、基本的なパソコンスキルはあったと思います。実は、当時の主な業務はiDesignやIllustratorを使った作業よりも、文字組版専用機を使った仕事を中心でした。もちろんiDesignを使うこともありましたが、DTPO業務については、仕事をしながら覚えていった感じだと思います。当時は電子書籍ではなく、一般の書籍の組版が中心でしたが、その後、業務が徐々に電子書籍へと移っていきました。

塚田 当社では、DTPOが普及した1990年代から、時代に合わせて仕事の内容や設備、拠点の役割を変えてきました。かつては印刷機を置いていた工場が、その後プリプレスや製版を担う拠点になり、現在ではデジタル印刷を中心とした工場になっています。10年単位で見

選手権を見たことがきっかけでした。それを見て、「こういうものがあるんだったら、自分も受けてみたい」と本人から言ってきたんです。ジャグラテストについて、私自身も当時は試験の内容を詳しく知っていただけではありません。でも、仕事をしながら技能を高めたり勉強したりすることはいいことです。から、「ぜひ頑張ってください」と応援しました。それで、「じゃあ毎年やってみよう」という感じで、継続して挑戦するようになりました。

樋口 ジャグラテストの内容についてどう思われますか？

武川 実際にジャグラテストの問題を見てみると、かなり実践に即した内容なんです。他のDTPO関連の試験はどちらかというと知識のアップデートやアカデミックな内容ですが、ジャグラテストは、実際の仕事でありそうなシ



イメージングセンター 課長 武川 雅明氏

ても、印刷会社の仕事は大きく変わってきました。そうした環境の変化の中で、糸数さんも入社後に仕事を覚え、DTPO関連の業務に取り組んできました。

浅野 糸数さんは聴覚障がいをお持ちですが、仕事にはすんなり入っていたのでしょうか？

武川 特に大きな問題はなかったと思います。当時は今のようにチャットツールが普及していなかった。仕事上のコミュニケーションは、直接話をするのが中心でした。そのため、こちらでもできるだけわかりやすく、はっきり伝えることを意識していました。ただ、糸数さん自身の理解力がすごく高いんです。こちらが伝えたことを理解するだけでなく、「次はこういうことだろう」と先のことまで予測して、仕事を進めてくれる。ですから、こちらも「配慮が必要な社員だから」と特別に構えるというより、普通に仕事をする仲間としてコミュニケーションを取ってました。今もそれは変わりません。

樋口 最近は印刷業界でもAーの活用が大きな課題になっていますが、時代の変化に応じて糸数さんの就業環境にも変化はありましたか？

武川 以前だったら、インターネットで検索して、断片的な情報を集めながら試行錯誤していたようなことも、今はAーに質問しながら進められるようになりました。たとえばJavaScriptのコーディ



専門委員 樋口 泰行氏

チュエーションに近い問題が出てくる。そのあたりが、糸数さんにはうまく合ったのだと思います。本人もかなり職人気質というか、そういうものに向いているところがあるんですよね。これだけ実践的な内容だからこそ、実際に現場で仕事をしている人にとっては、技能を高めるきっかけにもなる。こういう試験を通して、オペレーター同士で「これはどうやるんだろう」と議論したり、学び合ったりする機会が増えていけばいいなと思っています。

樋口 社内でDTPOペレーターのスキルを測る物差しはありますか？

武川 社内には統一した「物差し」があるわけではありませんが、資格取得は一つの目安にはなっています。当社はISOを取得している。各部署で社員の「力量」を評価し、それを年度ごとにどう高めていくかを考えることが基本的な活動

錦明印刷株式会社

東京都千代田区西神田に本社を置く総合印刷会社。出版印刷、商業印刷をはじめ、デジタルプリント、マーケティング支援、フォトビジネスなど、印刷を軸とした幅広いコミュニケーションサービスを展開している。長年培ってきた印刷技術に加え、DTPやデジタル技術を取り入れ、時代の変化に対応しながら事業領域を広げている。

所在地

東京都千代田区西神田 3-3-3

創業 1916年（大正5年）

代表取締役社長 塚田 司郎

資本金 1億円

従業員数 150名

主な事業 出版印刷・商業印刷／マーケティングサービス／フォトビジネス

取材出席者

錦明印刷株式会社

代表取締役社長 塚田 司郎

錦明印刷株式会社 イメージングセンター

課長 武川 雅明

糸数 麻衣子

DTPスキルコンテスト委員会専門委員

浅野 健一（ジャグラ東京文京支部）

樋口 泰行（ジャグラショートカット講師）



イメージングセンター 糸数 麻衣子氏

す。また、ゴールド認定を取得したことについては、課長が朝礼での発表や社長への報告をしてくださいました。認定のお祝いに自作したアクリルスタンドを会社のデスクに飾っています。

樋口 周りの方から仕事について相談されることもありますか？

糸数 DTPの仕事は個人プレーになりやすいところもありますし、今はインターネットで調べられることも多いので、基本的には各自で調べますが、それでもわからないことがあれば相談してもらうことはあります。

浅野 普段、スキルアップのために取り組んでいることは？

糸数 まとまって勉強する時間はなかなか取れませんが、XやSNS等から日々入ってくる情報を見て、「こういう機能があるんだな」と思ったり、気になったことを調べたりしています。

浅野 これからの目標を教えてください。

糸数 これまでやってきたことを土台にして、これからはプログラミングにも挑戦していきたいです。今はAーを使えば、これまで自分には難しかったことも取り組めるようになってきています。Aー

も活用しながら、できることをどんどん増やしていきたいですね。そして、仕事にかかる時間を少しでも短縮できたらいいなと思っています。

浅野・樋口 今回の取材では、糸数さんの仕事ぶりを伺う中で、適切なツールの活用や本人の創意工夫があれば、DTPオペレーターとして働くうえで聴覚障がいがある人の妨げになる場面はほとんどないことを実感しました。また、必要なコミュニケーションを工夫しながら、技能や仕事ぶりで評価する御社の姿勢にも感銘を受けました。これからAーやデジタ

ル技術によってDTPの仕事がさらに変化していく中でも、糸数さんのように自分の技能を客観視し、『もっと良い方法はないか』と考えながら学び続ける姿勢は、これからのすべてのDTPオペレーターにとって大切なのだと感じました。本日はありがとうございました。



専門委員 浅野 健一氏

る。そういう客観的な証明があることは、正社員登用を考える際にもプラスになったと思います。

樋口 障がい者雇用において、DTPの技能を客観的に示せることには意味がありそうですね。

塚田 企業には一定数の障がい者雇用が求められていますが、採用した後に「この人にはどんな仕事を任せられるのか」というのは、現場として判断する必要があります。DTPオペレーターという仕事は、技能を身につけることで、障がいの有無にかかわらず活躍できる場面があると思います。その技能を第三者が資格や認定という形で示してくれば、本人にとっても就職や仕事の選択肢が広がりますし、企業側にとっても採用や配置を考える際の一つの判断材料になります。そういう意味でも、ジャグラテストのような仕組みがもっと広がっていくといいと思います。

認定取得者として部署の「頼られる存在」に

浅野 現在、糸数さんはどのような仕事を担当されていますか？

武川 組版の仕事が多いので、InDesignを使うことが多いですね。現在は、歯科専門誌の組版をメインに担当しています。組版専用機が使われていた頃から、現在のCloud中心の環境へと移行する中でも、仕事を覚えながら対応してき

ました。最近では、スクリプトやバッチ処理なども組み合わせて、組版作業の自動化にも取り組んでいます。

浅野 部署の中では、糸数さんはどのような存在ですか？

武川 部署には18名ほどいるのですが、InDesignに関してはいえば、うちの部署の中では、たぶん糸数さんがナンバーワンじゃないでしょうか。わからないことがあると、みんな彼女に聞いています。ある意味リーダーみたいな存在ですね。もちろん、最初からそうだったわけではありません。入社してから仕事を覚えて、わからないことを自分で調べながら、一つずつ身につけてきたんだと思います。私自身も、誰かに全部教えてもらったというより、自分で調べながら仕事を覚えてきたところがありますから。そういう意味では、彼女も同じような道を歩んできたのかもしれない。担当者ごとに扱っている案件も違いますし、クライアント独自のルールや仕事の進め方がありますが、だからこそ、資格を取得して高い技能を持った人が部署の中に入ると、その人を軸にして、周りの人も学ぶことができるのではないかと思います。

ジャグラテストとこれから

浅野 さて、ここからは糸数さんにもお越しいただきましたので、ご本人に質問させていただきます。実際にジャグラテストを受験して、試験の難しさや内容に



についてはどう感じましたか？

糸数 普段の業務で使っている機能も半分くらいはありましたが、あまり利用しない機能を使わないとクリアできない問題もありました。でも、そういう機能を覚えれば、次の仕事にも生かせると思いましたし、難しいけれどやりがいのある、ちょうどよい難易度の試験だと感じました。

浅野 ゴールド認定を取得して、仕事への意識に変化はありましたか？

糸数 もともと印刷や組版に関する知識は、自分なりに持っているつもりでした。でも、実際に試験を受けてみると、「この条件を守らなければならないんだ」と気づかされるのがたくさんありました。それ以来、自分の仕事でも「ここはきちんと確認しないといけない」と、以前より気をつけることが増えたと思います。

日印産連 9月印刷の月式典 ジャググラから藤田氏、岡本氏、宮崎氏が受賞

日本印刷産業連合会が主催する「9月印刷の月 記念式典」が9月9日、東京都千代田区のホテルニューオータニで開催されました。

式典では、印刷産業の発展や地域社会に貢献した25名1団体（印刷功労賞10名、印刷振興賞15名、特別賞1団体）が表彰されました。

今回は特別賞として滋賀県印刷工業組合「未来に伝える「淡海（おつみ）」のいる」が表彰されたほか、印刷功労賞10名、印刷振興賞15名がそれぞれ表彰されました。

ジャググラからは、藤田信昭氏（株式会社ふじたプリント社代表取締役、現ジャググラ参与）が印刷功労賞を受賞、岡本泰氏（株式会社クイックス代表取締役社長、現ジャググラ理事）と宮崎真氏（株式会社ニシキコネクト代表取締役社長）が印刷振興賞を受賞しました。

式典に先立ち行われた



祝賀会の様子

記念講演会では、作家・時代小説家の今村翔吾氏が登壇し、「印刷が支える本の未来を考える」をテーマに講演を行いました。

式典後の懇親会終了後は場所を移し、ジャググラメンバーによる受賞祝賀会を開催。受賞の功績を祝うとともに、親睦を深めました。



左から4人目が藤田氏

印刷功労賞 藤田 信昭 氏
(株)ふじたプリント社
代表取締役

1998 年度から 2 年間副会長を務めたのち、2000 年度から 2 年間理事に就任。さらに 2004 年度から 2 年間監事を務め、2006 年度から現在まで約 20 年間にわたり参与の要職にある。四半世紀以上の長きにわたり数々の要職を歴任し、組織の基盤強化と業界の発展に貢献を続けている。2001 年印刷振興賞受賞。

印刷振興賞 岡本 泰 氏
(株)クイックス
代表取締役社長

2018 年度より副会長 4 年間、2022 年度より会長を 4 年間務める。「ジャググラコンパクト DX」を掲げ、小規模企業でも取り組める DX 推進を強力に牽引し、会員企業のビジネス活性化に多大なる貢献を果たした。

印刷振興賞 宮崎 真 氏
(株)ニシキコネクト
代表取締役社長

2016 年度から 4 年間理事を務めたのち、2020 年度から 2 年間副会長に就任。2022 年度から 2 年間再び理事を務めた。在任中は、教育・技術委員会委員長として「ジャググラ BB」や「ジャググラコンテスト」の普及に寄与し、2020 年度からは生産性向上委員会担当副会長として、DX 事業の推進に多大なる貢献を果たした。

第29回 日本自費出版文化賞 受賞作決定 大賞に山内陸平氏『モダン・デザインの100年』

日本グラフィックサービス工業会主催、NPO法人日本自費出版ネットワーク主管の「第29回日本自費出版文化賞」最終選考会が9月4日、吉祥寺東急REEホテルにて開催されました。

今回の応募総数は824点（前年805点）。昨年12月1日から本年3月31日の公募を経て、4月から6月の1次選考、7月11日の2次選考会を実施、最終選考会で、鎌田慧選考委員長、成田龍一委員、中山千夏委員、藤野健一委員、秋林哲也委員、佐藤和夫委員、小池一子委員により、大賞1点、色川大吉賞1点、部門賞7点、特別賞6点、シルバー特別賞1点の計16点の受賞作品、および入選54点が決まりました。表彰式は11月7日にアルカディア市ヶ谷にて開催されます。

部門別応募点数内訳

地 域 文 化	120 点
個 人 誌	147 点
小 説	178 点
エ ッ セ ー	103 点
詩 歌	86 点
研 究・評 論	100 点
グラフィック	90 点
合 計	824 点



大賞の発表



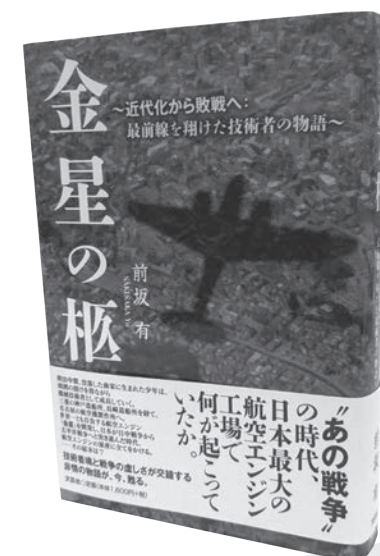
主催者挨拶を述べる原田会長

色川大吉賞〔個人誌部門〕

金星の柩

— 近代化から敗戦へ：
最前線を翔けた技術者の物 —

著者：前坂 有（兵庫県芦屋市）
発行社：(株)文芸社
印刷所：(株)平河工業社



大賞〔研究・評論部門〕

モダン・デザインの100年

著者：山内 陸平（大阪府大阪市）
発行社：(株)パレード
印刷所：創栄図書印刷

入選作品

書 名	著 者	著者住所	発行者 (者)	印刷所
地域文化部門				
幕末明治の大山と外国人	菅原順子	神奈川県伊勢原市	有隣堂	シナノ印刷
たかが五平餅 されど御幣餅	味岡伸太郎	愛知県豊橋市	春夏秋冬叢書	――
北の学徒出陣 一戦没者の足跡― シネ・ウインド 40周年記念	島津 彰	北海道北斗市	北海道出版企画センター	北海道機関紙印刷所
「みる かたる つくる にいがた映画130年史」月刊ウインド別冊	井上経久 他	新潟県新潟市	新潟・市民映画館鑑賞会	DI Paletteb
歴史の風景を読む 一島根の歴史と文化の一端に触れる―	鳥谷芳雄	島根県雲南市	報光社	報光社
近世北海道山林―山林が語る北海道の近世―	平工剛郎	北海道札幌市	北海道出版企画セン ター	北海道機関紙印刷所
役小角と修験道―揺籃の葛城と吉野大峯―	安達正興	奈良県奈良市	安達正興	共同プリント
個人誌部門				
編集者という生き方 ―編集人生50年、時には折れそうな心を支えてくれた【言葉の力】―	岩下賢作	埼玉県ふじみ野市	岩下賢作	POD (アマゾン、楽天)
若年認知症の妻と向き合う ― 我流「ダメ三原則」を貫く―	大沢幸一	群馬県桐生市	大沢幸一	オグラ印刷
岩手のフミちゃんが、看護師になった。	川井文子	千葉県鴨川市	風詠社	小野高速印刷
散りて華と咲く―太平洋戦争で散った大叔父からの手紙―	田辺真理子	新潟県新潟市	新潟日報メディアネット	(株)小田
ハンセン病差別の歴史を旅する ―「救済」への問いかけ―	八木 絹	東京都国分寺市	かもがわ出版	シナノ書籍印刷
ワタシまたはワタクシ	清水耕史	佐賀県佐賀市	Bee 出版	宮木プリント
掩体壕を残すまちから一字佐海軍航空隊を訪ねて―	平田崇英	大分県宇佐市	梓書院	大同印刷
小説部門				
スプラウト	福島太郎	福島県郡山市	福島太郎	ちよっ古都印刷工房
星空のオーケストラ	小野信義	岡山県岡山市	文芸社	フクイン
N 君、雪乃さん、そして	古田柊二	神奈川県横浜市	風詠社	シナノ印刷
アメリカ本土爆撃命令	渡部久人	宮崎県延岡市	風詠社	小野高速印刷
アグラの誓い	葵あずま	愛知県名古屋	文治堂書店	ワードウェブ
太秦安楽亭 ―モモのいる店―	志本 哲	京都府京丹後市	文芸社	フクイン
バックスの導き	藤村 邦	東京都新宿区	文芸社	――
舞文録 ―女優須磨子と島村抱月の真実―	涼江しげる	群馬県高崎市	三省堂書店、創英社	大盛印刷
エッセー部門				
発車オーライ―泣いて笑って40年 北の大地でバスガイド ―	今堀匡佐子	北海道石狩市	書肆山住	イニユニック
超人の倒れた家で ―ギラン・バレー症候群で母親が緊急搬送された我が家の52日間の日記―	つる・るるる	東京都新宿区	つるる書店	ちよっ古都製本工房
屋久島、そして雲ノ平へ	小梨里子	鹿児島県鹿児島市	幻冬舎メディアコンサルティング	中央精版印刷
エッセイ集 かけがえのない日々 第六章	田添京子	長崎県長崎市	ゆるり書房	昭和堂
エッセイ集 やぎさんゆうびん	長友克輔	宮崎県宮崎市	鉦脈社	鉦脈社
エッセイ集 ミヨばあ 再び	中井美与呼	大阪府枚方市	中井ミヨ子	ニシダ印刷製本
続 台湾は台湾 ―台湾を愛した人たち―	手塚幸男	栃木県日光市	東京図書出版	ブレイン
背番号 18	森 はつえ	東京都豊島区	文芸社	フクイン
詩歌部門				
ぼくのこころ	網代一法 〈著〉、 網代 進、網代礼子 〈編〉	東京都武蔵村山市	網代 進、網代礼子	藤原印刷
鶴田静枝句集 花林檎	鶴田静枝	神奈川県相模原市	草土社	喜怒哀楽書房
歌集 あざさの地図	熊谷 純	広島県広島市	飯塚書店	日本ハイコム
Curriculum Vitae/ ポリクリノート	林 祐一	福井県福井市	角川文化振興財団	中央精版印刷
歌集 めるい水	田中穂波	埼玉県三郷市	角川文化振興財団	中央精版印刷
歌集 引佐細江	松井 恵	静岡県浜松市	砂子屋書房	長野印刷商工
宇宙の彼岸花	澄川智史	北海道札幌市	澄川智史	石田製本
生駒孝子詩集 光る轍	生駒孝子	静岡県浜松市	国鉄詩人連盟事務局	銀河書籍
研究・評論部門				
九天玄氣組 20 周年記念 Qten Genki Book 『九』 玄氣玄影号	九天玄氣組	福岡県福岡市	イシス編集学校九州支所 九天玄氣組	イシダ印刷
齋藤秀三郎 小伝と和英大辞典	永島道男	福島県いわき市	つむぎ書房	――
ナホトカの春 ―ハルピン学院特修科・シベリア抑留記―	西家文代	静岡県富七市	羽衣出版	羽衣出版
「いのち」のために闘いつづける ―イタイイタイ病住民運動のこれまで、そしてこれから―	向井嘉之	富山県富山市	能登印刷出版部	能登印刷
沖縄県立農林学校最後の校長 渋谷秀雄の沖縄戦中日記	手塚好幸	長野県塩尻市	電算印刷	電算印刷
論集 明治十七年十一月 藤岡・秩父自由党事件	黒沢正則	群馬県藤岡市	まつやま書房	シナノ
倭建命とは何者か ―古事記から読み解く古代日本―	畠山 篤	青森県弘前市	22 世紀アート	POD (Amazon など)
グラフィック部門				
とうきび畑からのおくりもの 丘の妖精たち ―嵯城幸子 とうきび人形作品集―	嵯城幸子 〈著〉、 竹内百合 〈編〉	北海道上川郡美瑛町	アトリエポプリ	第一資料印刷
いのちが輝く瞬間	山科正平	東京都世田谷区	山科正平	新藤慶昌堂
ソウゾウのちから たまいつかさ自由画教室 2005-2025	アトリエ Kū	鳥取県米子市	アトリエ Kū	東京印刷
網島徹写真集 ちんどん一座 アタリヤ演芸宣伝社	網島 徹	群馬県前橋市	上毛新聞社	上武印刷
YAMAMOTO MASAYA WORKS 1973-2023 山本雅也 50 年の軌跡	山本雅也	兵庫県姫路市	山本雅也	丸山印刷
前田博史 天然写真集 幻生林 四国「正統派の森」へ	前田博史	高知県高知市	前田博史写真室	リーブル
PROFILE	高松ひとみ	東京都江東区	高松ひとみ	文伸
220 年のあゆみ ヤシマグループ創業 220 周年記念	ヤシマ工業社史編集室	東京都三鷹市	ヤシマ工業株式会社	ぶんしん出版
タカターニャの森	Bird tale Flower tale	京都府京都市	TAKAKO DESIGN WORKS	――



個人誌部門

みいちゃんのお菓子工房
― 12歳の店長兼パティシエ誕生
～子育てのアンラーニング～

著者：杉之原千里(滋賀県近江八幡市)
発行者：PHPエディターズ・グループ
印刷所：シナノ



エッセー部門

Les quatre saisons de mon jardin
― ようこそ私の庭へ ―

著者：太田ふじ子(静岡県静岡市)
発行者：かまくら春秋社出版事業部



研究・評論部門

幕末・明治期の社会と人々の暮らし

著者：猿渡伸司(愛知県一宮市)
発行者：風媒社
印刷所：モリモト印刷



小説部門

富士フィルムグラフィックソリューションズ賞

君に向かって線を引く

著者：升井純子(北海道札幌市)
発行者：森の出版社ミチクル
印刷所：中西印刷



研究・評論部門

ホリゾン・ジャパン賞

パインアップルの産業史

― 沖縄からたどる果実と人の500年 ―

著者：中村哲也(埼玉県春日部市)
発行者：22世紀アート
印刷所：POD (Amazonなど)



地域文化部門

聞書・中城人たちが見た沖縄戦
― 津覇にゆかりのある人々を中心に ―

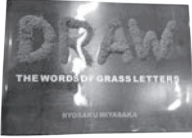
著者：久志隆子・橋本拓大(沖縄県中頭郡中城村)
発行者：榕樹書林
印刷所：(有)でいご印刷



小説部門

長春 ―追憶の日々―

著者：山本直哉(長野県長野市)
発行者：(株)文芸社
印刷所：/(株)フクイン



グラフィック部門

DRAW THE WORDS OF GRASS LETTERS

著者：RYOSAKU MIYASAKA (長野県諏訪市)
発行者：信濃毎日新聞社、宮坂了作 < 編 >
印刷所：イシワタグラフィックス



地域文化部門

コニカミノルタジャパン賞

撮っとこ!床鍋

― 首都圏出身大学生×高知の限界集落

176本の動画と共に、山の暮らしを未来へ繋ぐ ―

著者：前田大我・伊藤美紀(愛媛県四国中央市)
発行者：伊藤美紀
印刷所：Independently published



詩歌部門

ショーフ賞

詩文集 絶望の八円

著者：青山晴江(東京都葛飾区)
発行者：土曜美術社出版販売
印刷所：モリモト印刷



コダック合同会社賞

山里が輝いていたころ

― 高尾山地(小仏峠)西麓

昭和10年代中頃の生活風景 ―

著者：塚本良則(93才)(東京都八王子市)
発行者：白山書房
印刷所：東海電子印刷

シルバー特別賞



個人誌部門

リョービMHIグラフィックテクノロジー賞

断簡

― ある音楽学生の生と死 ―

著者：中林敦子(埼玉県入間市)
発行者：風詠社
印刷所：小野高速印刷(株)



エッセー部門

キングコーポレーション賞

もっと笑って!もっと楽しんで!

― 津老人ホームの暮らしに

ユーモアと笑いを ―

著者：十河新作(神奈川県藤沢市)
発行者：十河新作

特別賞

※グラフィック部門
特別賞は該当なし

「印刷技術委員会」は、デジタル化が進む中で「オフセット印刷の収益性と可能性」を客観検証することを目的に立ち上げられました。原田会長が提示した「オフセット印刷の優位性と将来性」という仮説に対し、当委員会は客観的な経営判断を下すためのデータ（エビデンス）の蓄積と、現場で直ちに活用できる実用的な支援ツールの開発を目指しています。

印刷技術委員会

「オフセット印刷の未来」への実証と検証

～「ロット確保」と「教育」による経営改善の条件式～

■スタートアップ体制としての発足と今後の拡充

印刷技術委員会は、稲満信祐委員長を中心に活動を開始しました。東京グラフィックス教育技術委員会とも連携し、地域や世代を超えた技術・教育情報の共有を図ります。今後は全国からの多様なメンバー加入や外部アドバイザー招聘により実務的な推進体制へ順次拡充する方針です。デジタル化が進む中、原田会長が提示した「オフセット印刷の優位性・将来性」という仮説に対し、客観的な経営判断を下すためのデータ（エビデンス）の蓄積と、現場で直ちに活用できる実用的な支援ツールの開発を目指しています。

■3大活動テーマ

- ① 初年度の活動方針として、取り組む課題を以下の3点に絞って注力します。
- ② オフセット印刷儲かりポイントの再検証…会員企業へのヒアリングを実施。
- ③ ロットの確保…従来の受託生産から脱却し、自社で企画した製品を開散期に組み合わせて計画印刷する「製品ミックス」の構築を目指します。
- ④ 教育（後継者育成）…熟練技能領域を整理し、機械の外で事前準備を行う「外段取り」化やマルチタスク化を通じた人件費の効率化（変動費化）ノウハウを体系化します。

■AI・DXによる技能継承の可能性を現場視察

9月10日、山本副会長、稲満委員長、瀬尾副委員長、大根田委員が製造業向けAI・DX展示会を視察しました。製造現場での省人化・作業標準化・技能継承の最新事例を調査し、特に「熟練者の暗黙知を残す技術」と「現場で使える形にする技術」に着目しました。



9月10日、製造業向けAI・DX展示会を視察。省人化・標準化・技能継承の最新事例を調査した。

1. 熟練者の作業を「教育資産」に変えるウェアラブルAI…首掛け型端末で一人称視点の映像・音声・現場データをハンズフリー記録しAI解析。段取り、刷り出し確認、色調整、品質判断、トラブル対応など経験依存度の高い工程を、次世代へ引き継ぐ教育資産として蓄積できます。



熟練作業者の一人称視点を記録し、AIで解析するウェアラブル型の技能継承支援。

2. スマートグラス型AI支援…スマートグラスと音声AIで紙の点検票やマニュアルをハンズフリー化。手を止めず音声記録し、必要な手順を視界上で確認できます。ベテランの声や写真

からAIが手順書の下書きを作成し、新人がガイドを見ながら作業する運用も想定されます。AIは熟練者を置き換えるものではなく暗黙知を可視化して若手へ伝える道具であり、物理的・定型作業の代替による生産性向上や技術習得のハードル低下というポイントが明確になりました。



作業中に手順を確認し、音声で記録できるスマートグラス型の現場支援。

■今後の展望と実行ロードマップ

- ① 現状課題アンケートの実施と分析…全国の会合等で回収しリアルな課題やニーズを集計。
- ② 簡易診断マニュアルと支援ツールの開発…セルフチェックできる「経営診断ドットコム」を開発し、提供。
- ③ 全国先進事例への実態調査…自社製品企画による稼働率平準化（関東、共同運営による固定費の変動費化（九州）、地域密着型の設備リソース連携（四国）など独自のビジネスモデルを現地調査・検証し、強力な裏付けとします。
- ④ 全国セミナーへの展開…蓄積データや診断マニュアルを活用し、改善ノウハウを普及させる全国セミナーを開催します。

「仕事量」と「教育」を地域で組み直し、オフセットを、残せる経営技術へ昇華させてまいります。

Horizon
Change the focus

完全予約制

本展示会は入場無料の登録制になります。詳細情報はイベントサイトをご覧ください。



www.horizon.co.jp/ja/exhibition/2026/hsf_2026/

Horizon Smart Factory 2026 in HIP

無人化との共存

FIRST TOUCH

[For Japan Days] 国内プログラム期間

28 WED – 30 FRI
Oct. 2026
10:00 – 17:00

株式会社ホリゾン 本社びわこ工場内 Horizon Innovation Park
(滋賀県高島市新旭町旭1600)

2026年のホリゾンスmartファクトリーイベントでは、「無人化との共存」をテーマに、自動化の目指す世界を、広い範囲で捉え皆様に提案します。

本イベントでは、印刷・後加工・梱包・運搬の全工程で実現された無人システムをさらにブラッシュアップ。自律走行搬送ロボットを用いた工程間搬送の完全自動化、ティーチングレスロボットやスマートグラスを活用した作業支援など、人とテクノロジーがシームレスに共存する未来のワークスタイルを提示します。

「無人化との共存」、どこを無人化し、何を人の役割として考えるのか？未来に向けたファクトリーオートメーションの世界を Horizon Innovation Park でご体感ください。

主催：ホリゾン・ジャパン株式会社 / ホリゾン・インターナショナル株式会社 / 株式会社ホリゾン

協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社 / ダックエンジニアリング株式会社 / 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社
ハイデルベルグ・ジャパン株式会社 / 株式会社 日本 HP / 株式会社 JSPIRITS / コニカミノルタジャパン株式会社
京セラドキュメントソリューションズ株式会社 / 株式会社ミヤコシ / リコージャパン株式会社 / 理想科学工業株式会社
リョービ MHI グラフィックテクノロジー株式会社 / 株式会社 SCREEN グラフィックソリューションズ

協力：株式会社バリューマシーンインターナショナル

ホリゾン・ジャパン株式会社 www.horizon.co.jp

本社	〒101-0031	東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F	TEL.03-3863-5361 (代)	FAX.03-3863-5360
東京支社	〒132-8562	東京都江戸川区松江5丁目10-9	TEL.03-3652-7631 (代)	FAX.03-3652-8083
京都支社	〒601-8206	京都府京都市南区久世大藪町510	TEL.075-933-3060 (代)	FAX.075-933-4025
福岡営業所	〒813-0034	福岡県福岡市東区多の津4-12-17	TEL.092-626-8111 (代)	FAX.092-626-8112
仙台サービスセンター	〒984-0002	宮城県仙台市若林区卸町東1-7-31	TEL.022-782-2821 (代)	FAX.022-782-3068

字 守 在 由

文字とつながる。
世界がひろがる。



Morisawa Fonts

デスクトップフォント

8書体まで利用可能

Select8

24書体まで利用可能

Select24

上限なく書体を選択可能

スタンダードプラン

Webフォント

サイト規模やプロジェクト数などに合わせて選べるプラン

Webフォント / Webフォント Lite / Webフォント Pro



morisawafonts.com

FUJIFILM

Value from Innovation

JetPress FP790

軟包装用水性インクジェットデジタル印刷機

Jet Press FP790

食品包装を中心とした軟包装用途向けに、新たに水性インクを使用したインクジェットデジタル印刷機を開発。軟包装フィルムにおける優れた印刷適性・加工適性を実現しました。グラビア印刷に比べ小～中ロットの生産性が向上し、短納期・多品種への対応が可能となります。



■ 主な特長

- 1200dpi高解像度ヘッドとインクの滲みを防ぐ下塗り剤により、グラビア印刷を凌駕する高画質を実現。
- 高濃度水性インクと乾燥システムの最適化により、50m/分の高い生産性と抜群の色安定性を両立。
- 白インクをダブルヘッドで印字することで、優れた白隠蔽性を実現。



包みの技術で 世界に便しさを
Innovative Packaging Technology
~ The link between our future planet and generations ~



TOKYO INTERNATIONAL PACKAGING EXHIBITION 2026

TOKYO PACK 2026

2026年10月14日(水)～16日(金)

東京ビッグサイト東展示棟

TOKYO PACK 2026 に出展いたします。

ブース：HALL7 7I09

JetPress FP790をはじめとしたデジタル印刷ソリューションとその高い実用性をサンプル展示で紹介いたします。

富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社



東京リスマチック株式会社

総合サポート窓口
プリント
デスク

☎ 0120-269-132
E-mail: support@lithmatic.co.jp

受付時間
月～金 9:00～17:00(祝日を除く)
※受付時間外については翌朝営業日のご案内となります。
お急ぎの場合は営業中の店舗に直接お問い合わせください。



Lithmatic
https://www.lithmatic.net



SHOWA

ユーザーサポートこそ商品

株式会社ショーワは、謄写版および付属品の販売と謄写印刷業の＜昭和謄写堂＞として、昭和3年に幅弓之助が創業しました。
創業者の幅弓之助は「良いものを売り、売ったものには責任を持つ事」に頑固なまでにこだわり続け、そのこだわりは創業から100年に向けて今なおショーワの社員一人一人にDNAとして脈々と受け継がれています。

長きに渡り、多くの取引先企業様より厚い信頼を寄せて頂けるのも、企業理念にもあります様にユーザーサポートという目に見えない、形のない「商品」だからこそ、付加価値を創造し続け、溢れる情報、市場状況を正確に分析・判断しうる知識とユーザーサイドで常に物事を考える「誠意」が評価して頂けているものと考えています。

今後も常に「ユーザーサポートこそ商品」の企業理念、創業者・幅弓之助の熱い志を胸に社員一同業務につとめていく所存です。

21世紀のグラフィックアーツを共に考えるショーワユーザー会

コラボレーション＆リサーチ

SHOWA会

ユーザー会で密に情報交換

年間活動

○研修会 ○工場見学 ○総会・幹事会
○会報・メールマガジンの発行 ○有志グループ活動

問い合わせ、入会お申込みは事務局まで
SHOWA会事務局 TEL.03-3263-6141 FAX.03-3263-6149



株式会社

プリントメディアの総合商社

http://www.showa-corp.jp/

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2丁目7番8号 TEL 03-3263-6141(代) FAX 03-3263-6149



野口 聡の

雑学コラム 46

コラム：47都道府県の話（その44：長崎県）

ジャグラ会報をご覧の皆様、こん〇〇は。ジャグラ東京・東グラ文京支部のアクティブ・野口です。

今月は長崎県を取り上げようと思います。かつては日本で唯一海外に門戸を開き、国内に世界の風を吹き込む場所であったこの地の事をつつら書いてみようと思います。少しの間お付き合いください。

1：長崎市といえば…

過去テレビでも何度も観た事があるかと思いますが、やはり長崎市と云うと「坂の街」ですよね。私も新婚旅行を含め何回か訪れたことがあります。坂がきつくて閉口した記憶があります。グラバー邸や大浦天主堂、平和記念公園でさえ私にはキツかった（笑） 因みに漫画の「こち亀」で主人公の両さんがバイク本田と長崎に行くと言う回（1983年の話）があって、その中で本田さんが「長崎にはバイクのライトの常時点灯義務がある」と言うくだりがあるって、当時の私には大人のお約束感がすごかったものだった。が、近年当時の地方の規則等を色々調べた方がいて「そんな記録は無かった」と発表しておりこの規則の話はどうやら創作の様ですね。現在では2輪車にはライトの常時点灯義務がありません。例えば創作だったとしても当時の風情が分かる描写だったと思います。

2：佐世保市の…

今度は佐世保の話でもしましょうか。言わずもがな県内第2の人口・規模を誇り、ハウステンボスなどの観光や佐世保バーガーなどのグルメでも有名な街ですね。そんな佐世保に本社を置く企業と云ったら…、そう日本が誇る通販会社のジャパネットたかたです。偶然にも今年創業40周年だそうです。

でも、この会社は40年前の創業当時から通販をやっていた訳では無かった事を知ってましたか。創業者の高田明（同じ名前（笑））さんが40年前に創業した当時はカメラ屋さんでした。カメラを売るだけでなくイベント等に参加して写真の撮影・現像等も行って「地元の名物店主高田さん」が地元のラジオ番組の中で通販コーナーを始めたのが4年後。あの話し方・キャラクターで一躍人気になり、そこから通販事業に本格的に参入し36年後の現在では県内1位の売上高2900億円、サッカーやバスケのチームへの協力を通して地域創生・景気復興の起爆剤となってます。ますます発展を続けていくであろう会社になりましたとさ。

確かにあの話を聞いたら興味湧くもんな。うちも父が曲内蔵カラオケや掃除機買ってたし。皆さんのおうちにも何かありますか？

さて、今回のお話はここまでです。お付き合いありがとうございました。では今月の問題です。

問題 2019年に公開された第1作は興行収入38億円と記録し翌年の日本アカデミー賞の12部門で優秀作品賞に輝き、4年後には舞台を関西に移した2作目も発表された漫画家魔夜峰央原作の映画は何でしょう？（正解は29ページ）

研美社

KENBISHA.COM



スマホタッチ一秒で
複数情報へ



ニアバイ
nearbyカード

デジタル名刺

スマホタッチ一秒で
単一情報へ



ユーアールエル カード
URL CARD

好きな URL リンクへ直線

1



1秒で交換
1枚で無限に使える

名刺に記載する、名前・メールアドレス・電話番号や、SNSなどの分散している情報を一枚に集約できる画期的なカードです。

1



1秒で SNS や
WEB ページへ GO !

スマートフォンにタッチするだけで、SNSやウェブサイト、動画、画像、PDFなどをアプリ不要で表示できるICカードです。

2



プロフィールページに
自分の情報を集約できる

ページ内デザインや、背景の設定も、最初にテンプレートから選べるのでカード発行後、クイックスタートが可能に！

2



クリエイター必須の
作品集としても使える

写真集、動画、ポートフォリオ etc... 作品はカード1枚で持ち歩き。タッチ1秒で自己表現ができます！

3



テンプレートがあるから
操作も簡単

設定はアプリ要らずで、専用の編集ページだけで完結。シンプルで直感的な操作が可能です！

3



自分だけのオリジナル
デザインでカードが作れる

お気に入りの写真や自分で作ったデザインで、あなただけのオリジナルカードが出来ます。

RICOH
imagine. change.



印刷業の未来を 共に創る

リコージャパン株式会社

〒104-6033 中央区晴海1-8-10

インサツのこれからをかんがえる

Print Compass Powered by RICOH



プリントコンパス 検索



委員が選ぶ 今月のおすすすめ番組

今月のカテゴリ：BB ネットワーク

委員が1カテゴリずつ“イチ推し”を持ち寄る本コーナー。
今月は「BB ネットワーク」から。会員自身が投稿した“ワザ”や、
仲間の素顔がのぞける動画など、ここでしか見られない一本をご紹介します。

おすすめ
JaGra 東京大会 金子と浅草飲み歩き

推薦：野口聡委員（東京／株式会社アクティブ）
カテゴリ：BB ネットワーク

撮影は谷山委員。気心の知れた相手だからこそ映る、金子支部長の「素」の表情がいいんです。肩の力が抜けた会員どうしの空気感は、まさにBB ネットワークならでは。あわせて、ショート動画講習で委員たちが投稿した作品も、それぞれの個性が出ていて思わず見入ってしまいます。



おすすめ
ワザコレ！No.04

（投稿者：株式会社ニシキプリント ※現・株式会社ニシキコネクト）

推薦：小澤孝一郎委員（山梨／株式会社オズプリンティング）
カテゴリ：BB ネットワーク

現場の機械を、「メーカーの想定を超えて自分たちなりに工夫して使いこなす」そんな現場のアイデアを会員が投稿する「ワザコレ」。No.04は「ニシキプリント（現・ニシキコネクト）」さんの一本です。こういう遊び心と工夫こそジャグリストらしくて好き。まねできる小ワザも詰まっています。

（私の所属する山梨支部の40周年記念誌座談会でも機械の改造などなど工夫するエピソードがあるのですが、本当にジャグリストって創意工夫しますよね）



アクセスは「ジャグラBB」で検索、または各番組の2次元コードから。

次号（11月号）のおすすめカテゴリは「経営」。
企業ルポや事業承継など、経営のヒントになる番組をご紹介します。

データで見るジャグラBB

この夏の主役は 「映像で学ぶ印刷のすべて」

— 2か月で227回、視聴の半分超

7～8月の視聴レポートを分析しました。

2か月の再生回数は406回。

圧倒的な視聴数をたたき出したのは、
印刷の全工程を映像で学べる
「映像で学ぶ印刷のすべて」シリーズでした。



注目！ シリーズが夏を席卷

「映像で学ぶ印刷のすべて」全11章が、7～8月で延べ227回視聴されています。
これは2か月の全視聴（406回）の約56%。
特定の章だけでなく、基礎編～各論まで満遍なく再生されており、新人研修や学び直しに“順番に通して”活用されたとみられます。

（番組アクセス数の推移）

月	番組視聴数	登録者数
4月	140	1,205
5月	102	1,206
6月	244	1,210
7月	203	1,213
8月	203	1,215

→6月の244回をピークに、夏場も月200回超で安定。登録者数は8月末で1,215名になりました。（安定したアクセス数があります）

（7～8月 注目番組 TOP8（シリーズ以外））

順位	番組名	カテゴリ	視聴回数
1	宮城県支部セミナー「生成AI時代の印刷会社の戦略」	教育と技術	16
2	企業ルポ No.17:株式会社グッドクロス	経営	8
3	数分でマスターする『インデ(InDesign)のツボ』シーズン1	教育と技術	8
4	講演「グラフィックサービスが生み出す共創ビジネス」(岡本会長)	セミナー	7
5	【完結編】信頼設計ビジネスマナー基本研修 2026年版	教育と技術	7
6	業態進化委員会 創注実践セミナー2(企画・提案の最前線)	セミナー	7
7	認定個人情報保護団体セミナー2019	経営	6
8	印刷業界トレンド解説シリーズ Vol.1 Adobe製品の生成AI 前編	教育と技術	5

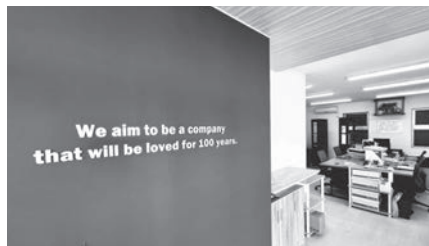


- 端末はPCが約95%：PC 384回 / スマホ・タブレット 22回。研修や業務のなかでの視聴が中心です。
- よく見られる曜日・時間：水曜・月曜に集中し、午前9～10時台と午後1～2時台に山があります。
- ヒント：「映像で学ぶ印刷のすべて」は章立てが明快。新人には基礎編から、営業には各論からと、目的別に“通し”で見せるのがおすすめです。

三三解説

やはり「生成AI」についての関心が高いのがわかります。
また第2位には、新会長に就任された原田会長の企業ルポの再生回数が伸びています。原田会長への期待感の盛り上がりを実証しています。

～ 100年愛される会社へ 個人情報保護の重要性～



100年企業を目指すことを掲げたエントランス

秋田県支部

株式会社東海林印刷

代表取締役社長 東海林正豊

私たち東海林印刷は昭和26年（1951年）に創業し今年で75周年を迎えました。設立当初は東海林商会という社名で、地元企業の様だけでなく個人の方向けにも幅広い商品を取り扱う企業として私の祖父が立ち上げました。設立から間もなく、その祖父が秋田市議会議員を経て秋田県議会議員となり、当時の高度成長期時代に飛ぶ鳥を落とす勢いで発展した印刷業に携わるようになり、社名も昭和60年（1985年）に株式会社東海林印刷へ改称しました。

Pマーク取得の経緯

その関係で官公庁の入札案件が主な仕事となり、ピーク時は売上の7割を占めたと聞いています。しかし今から20年ほど前には、それまで順風満帆だった官公庁案件も次第に競争が激しくなり、前後して県の入札も電子化したことで価格競争の波に飲まれるようになっていきます。そんな中、ジャブラが2007年にPマークの指定審査機関の認可を受けた翌年の2008年、他社との差別化と官公庁入札条件に個人情報取扱業者に限る項目を付帯させることを目的として当社も取得することとなりました。

Pマーク取得後、現在に生きる取り組み

く、「安全に使つ」という視点を大切にしています。Pマークは紙の規程やチェックリストだけに存在するものではなく、日々の業務の仕組みの中に生きてこそ意味があるものだと考えています。

A時代だからこそ、情報を守る力が必要になる

これからの時代において、Pマークの重要性はさらに高まっていくと考えています。現在、生成AIをはじめとしたさまざまなAI技術が急速に普及しています。これまで人間が時間をかけて行っていた文章作成や情報整理、データ分析などが、AIによって短時間でできるようになりました。印刷業界においても、AIを活用することで業務効率や生産性を大きく向上させられる可能性があります。しかし、便利になればなるほど、「何をAIに入力してよいのか」という新しい問題も生まれてきます。

例えば、お客様からお預かりした個人情報や機密情報を、十分なルールや知識がないままAIに入力してしまえば、情報漏えいにつながる可能性があります。これからは、「AIを使える会社」だけではなく、「AIを安全に使える会社」であることが重要になります。そのためにも、個人情報保護や情報セキュリティについて一定の知識と管理体制を持っていることは、企業にとって必要不可欠な条件になっ

こうして2008年にPマークを取得したわけですが、実際には当初期待していたように、取得したことが直接、官公庁案件の入札条件として認められるケースはほとんどありませんでした。行政側においても、当時はプライバシーマークそのものに対する認知度がまだ十分とは言えず、「Pマークを取得していること」が入札参加や受注に大きく影響するという状況にはありませんでした。正直なところ、取得当初は「せつかく取得したのだから、もう少し仕事につながってもいいのではないか」と感じたこともありましたが、しかし、18年以上にわたって運用を続けてきた現在、振り返ってみると、Pマーク取得によって得られたものは、入札条件や営業上のメリットだけではなくたと実感しています。

最も大きかったのは、個人情報をはじめとする「守るべき情報」に対する社員一人ひとりの意識が変わったことです。Pマークの運用では、個人情報等をどのように取得し、どこで管理し、誰が利用し、どのような場合に第三者へ提供するのかといったことを明確にしておく必要があります。また、情報漏えいや紛失、誤送信などのリスクを想定し、万の事故が起きた場合にどのように対応するかについても、社内での共通認識を持つことが求められます。

こうした取り組みは、単にPマークを維持するための「規則」ではなく、現在では当社の社内規約や業務の基本的な考え方の中に自然に組み込まれています。印

ていくのではないのでしょうか。

何より大切なのは、お客様の情報を守ること

私たちがPマークを取得してから18年以上が経ちました。

その間、印刷業界を取り巻く環境は大きく変化しました。紙媒体の需要が変化し、デジタル化が進み、さらに現在はAIという大きな変革の波が押し寄せています。

しかし、どれだけ技術が進歩しても変わらないことはお客様からお預かりした大切な情報を守るという責任です。

Pマークを取得しているから安全なのではなく、Pマーク取得をきっかけとして社員一人ひとりが情報を守る意識を持ち、それを日々の業務の中で実践していくことに意味があります。我々印刷会社は、お客様のすぐそばで仕事をする立場だからこそ、単に「印刷物をきれいに印刷」だけではなく、「お客様の情報を安心して預けていただける会社」であることが大切で、これは、当社が75年にわたり地域の皆様と仕事を続けてくる中で、大切にしてきた考え方の一つでもあります。

CSR活動にもつながる「守る」という考え方

また、Pマークの取り組みは業界団体

刷会社という仕事は、お客様からさまざまな情報をお預かりする仕事です。名簿やダイレクトメールなどの個人情報はもちろん、企業の営業情報、商品情報、販売計画、顧客情報、社内資料など、外部に出てはいけない機密情報を取り扱う機会も少なくありません。

つまり、印刷会社にとって「情報を守る」ということは、特別な業務ではなく、本来の仕事そのものの一部なのだと思います。

地域貢献活動にも生きるPマークの考え方

また、当社では地域とのつながりを大切にし、さまざまな地域貢献活動にも取り組んでいます。こうした活動を行う際にも、Pマークの運用を通じて身につけた「個人情報を適切に取り扱う」という考え方が役立っています。

地域貢献活動では、参加者名簿や連絡先、イベントの写真など、意外と多くの個人情報を取り扱っています。善意で行っている活動であっても、情報の取り扱いを誤れば、相手に不安や迷惑をかける可能性があります。「この情報は本当に必要なのか」「誰が見ることができるのか」「どこまで公開してよいのか」と



介護施設の清掃による地域貢献活動

の枠を超え、弊社が取得している全印工連のCSR認定制度においても活用されています。企業の社会的責任（CSR）は、環境への配慮や地域貢献だけではなく、おお客様から預かった情報を適切に管理すること、社員が安心して働ける環境をつくること、法令や社会的なルールを守ることなど、企業として当たり前に果たすべき責任の積み重ねがCSRにつながっています。Pマーク取得・運用を通じて構築してきた仕組みや考え方を、CSR活動にもつなげていくことで、単独の制度として終わらせず、企業経営全体の質を高めることができると考えています。

まさに社内に情報を守る文化が根づいたこそが、最も大きな成果だったのかもしれない。

これからは、守るべき情報はますます増えていきます。だからこそ私たちは、Pマークを「取得していること」に満足するのではなく、これまで培ってきた知識と経験を日々の業務に生かし、お客様から「東海林印刷なら安心して情報を預けられる」と思っていただけの会社であり続けたいと考えています。

創業75周年を迎えた今、100年愛される会社を目指しています。これまで地域の皆様からいただいた信頼を次の世代へつないでいくためにも、「印刷」と「情報を守ること」の両方を大切にしながら、これからの時代に必要とされる印刷会社を目指していきたいと思います。

いったことを考える習慣が身についたことは、Pマークを取得し、長年運用してきたからこそ財産だと感じています。

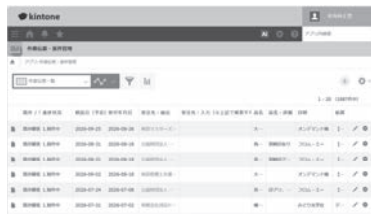


地域清掃活動集合写真

キントーンを活用した業務管理にも

現在、当社では業務管理に「Kintone（キントーン）」を活用しています。社内のさまざまな業務情報をデジタル化し、情報を一元管理することで、業務効率の向上や情報共有のスピードアップを図っています。一方で、業務のデジタル化が進めば進むほど、情報管理の重要性も増していきます。

そこで、これまでPマークの運用で培ってきた個人情報保護の考え方を、キントーンを使った業務管理の仕組みにも組み込んでいます。誰がどの情報を見ることができ



業務管理システムkintone

7月3日 FACE 定例会レポート

SPACE-21がFACE定例会にやってきた!

東グラ青年部 FACE
会長
雨水 誠治
株式会社甲文堂/
東京・文京支部



はじめまして。今年度東グラ青年部FACEの会長を拝命しております、株式会社甲文堂 雨水(すい)と申します。

2026年7月4日SPACE-21の幹事会がジャグラ会館会議室で開催され、幹事の方々が東京に集まりました。今回はその前日「2026年7月3日」のお話になります。

幹事会が東京での開催となり、せっかく東京にお越しになる機会でもあることから、「FACEの活動も体験していただく」ということで松谷代表幹事から提案を受けました。FACE定例会の日程変更等、準備を進めSPACE-21の皆様は、FACE名物のグループワークにご参加いただきました。

【FACE定例会(2026)】当日の報告に入る前に、まずFACEの定例会について少しご紹介します。FACE定例会は毎月第2木曜日に開催しており、東グラ会員

を中心に、賛助会員(メーカーさんや販売店さん等)にも多数ご参加いただいています。参加人数は平均45名前後で、回を重ねるごとに徐々に増えており毎月大変な盛り上がりを見せています。

会の前半は各種連絡を中心とした「定例会」を行い、後半は少人数のグループに分かれて活動する「ワーク」を実施しています(企画から運営まで、ほぼすべて会員自ら準備)。毎月テーマを決めて、それぞれの立場や経験から意見を出し合い、各グループで結論をまとめ全員の前で発表するという流れです。テーマによってはチームごとに順位を競うこともあり、優勝チームには懇親会費が無料になる特典が用意されるなど、楽しみながら真剣に取り組める工夫もしています。

さて、今回の7月定例会では、発送関連の会員企業の皆様による「発送代行利益チャレンジ」と題したグループワークを行いました。

概要について説明があり、各社印刷後の封入から発送まで「買ってサポートできる」ことをPRされました。続けて、「緊急の依頼!」という設定のもと、寸劇を交えながら楽しくワークの内容を説明。その後、実際の現場で行われている作業を体験するため、用紙を封入して50セットを作成する実践形式のワークに取り組みました。



SPACE-21 幹事の挨拶



懇親会



グループワーク

「最後に」当日は日程の変更にもかかわらず多くの方に参加していただきました。FACEメンバーの中には、これまでSPACE-21について詳しく知る機会が少なかった方もいます。今回の交流を経て、SPACE-21とFACEのメンバーの距離が縮まりました。印刷業界を盛り上げていくために、これからも青年部から元氣や楽しさを発信していけたらと思います。今後も松谷代表幹事率いるSPACE-21にご注目ください!



SPACE-21が全国協議会をPR

ジャグリスト スタンプGET JaGraアプリ & 新GS連動企画 デジタル FINAL STAGE スタンプラリー



スマホカメラからではなく
JaGraアプリを立ち上げて読み込みください

参加方法 スタンプが **4** 個(7~10月号)貯まったら、そのまま抽選エントリーが自動完了!



7月号から10月号までの4ヶ月間、月刊GSと公式アプリが連動したデジタルスタンプラリー企画を開催します。毎月、誌面に掲載される二次元コードをJaGraアプリから読み取ると、スタンプを1つずつ集めることができます。4個(4ヶ月)スタンプを集めるとそのまま抽選エントリー完了です。遡っての取得もOK! 素敵な賞品が抽選で当たります。当選者の発表は11月号に掲載予定しておりますので毎月のお楽しみとしてぜひご参加ください。

先月号のスタンプ
取得しましたか?
アプリ設定から
ニックネームの
変更をお忘れなく



会社名+氏名



主催: JaGra広報委員会

キラ星 ジャグリスト

高知県支部

有限会社 三宮印刷
代表取締役社長 三宮健司

所在地 高知県高知市潮新町2丁目14-8



印刷から製本・加工まで 同業者の仕事を支える

はつめい

弊社は高知県高知市で昭和三十八年から六十年以上、創業者の祖父、二代目の父から引き継ぎ、現在は三代目として私が印刷業を営んでおります。

高知県の印刷業は他県に比べ早い段階で倒産、廃業があり、私が二十年前に弊社に入社した時には既にその現象が表面化している状況でした。

その当時の状況を憂いていた両親は私が会社に戻ってくるのに反対でした。そこで両親は、一誠社（香川県が本社で設備や資材を販売している）の白髪のおんちゃんこと藤田さんに私との面談をお願いしました。その際、いかに印刷業界が良くない状況なのかを数回に渡り伝えられ、戻ってこないようにと説得されました。しかし、幼いころより会社慣れ親しみ、一生懸命働く家族、社員さんの姿を日々見ながら、いつの頃からか「いつかこの会社を継がなければ」という思いが芽生えていた私の決意は固く、藤田さんと両親の再三の説得に全く応じることなく会社

に戻るようになりました。その思いを汲んでくれた藤田さんは「よっしゃ、そのまま言うやたらやろう、そのかわり両親の言うことを聞いたらいいかん、おっちゃんのことだけ聞いてやっていこう」と言ってくれて、この後の三宮印刷にとって、とても重要な人物を後見人に据える形で私の印刷人生が始まりました。

地域と同業者を支える

弊社は、名刺、封筒、伝票、冊子などの印刷から製本・加工までを手がけ、地域の企業や団体の依頼もありますが、特に同業の印刷会社からの依頼が多い状況です。

特徴としては、完成品の製作だけでなく、製本・加工のみの依頼や持ち込みにも対応しています。依頼元が印刷を行い、刷りっぱなしで持ち込んだものに対して必要な仕上げ工程を行い納品する。自社にない設備や工程を補い合う、同業者の協力先としての役割を担っております。報告書や広報誌、マニュアルなどの冊子に加え、業務で使う伝票や封筒、販促用

のチラシなど、扱う印刷物は多岐にわたるため、その多くをカバーできる設備を備えています。

設備のポイントは 「高知県をひとつの会社」として考える

弊社の特徴のひとつとして挙げられるのが「過剰設備」です。弊社単独では償却しきれない設備でも、高知県全体で見ると償却に十分な稼働率を見込めます。ひとつ例を挙げると、ミシン機（ホリゾン製VP-53、VP-66AF）の導入です。二十年前はオフセットや活版機でミシンを入れるのが主流でミシン機を持っていない会社が高知県にはありませんでした。弊社は当時から伝票業務が多く、オフセットで印刷しながらミシンやナンバーを入れるようにしていました。いつの頃からか、印刷無しのA4サイズの紙にミシンのみを入れる依頼が増えてきたのをきっかけにミシン機を導入しました。

後見人の藤田さんから購入するので

が、高知県中から相談を受ける藤田さんが、「ミシンできるころ知らん？」と聞かれたら「三宮印刷ができますよ」といった形で全てのミシンのお仕事を紹介していただき、「ミシンの仕事は三宮印刷でできる」という環境をつくることができました。そのおかげでミシンのお仕事が増え、上位機種は二台目を増設するに至りました。

藤田さんには、日頃から困った時に相談しており、高知県にこんな設備が必要だなと感じた時には藤田さんと相談し、設備を導入したら仕事を紹介してもらうことを繰り返してきました。その結果が「過剰設備」ということです。

当然、自社だけではなく他社に新しい設備が入れば、その会社に仕事を依頼します。私と藤田さんは長い時間をかけ、高知県の会社と会社を繋ぐハブ役になることで「高知県をひとつの会社」として考えることが実現できていると思います。

特に大事にしている信頼関係

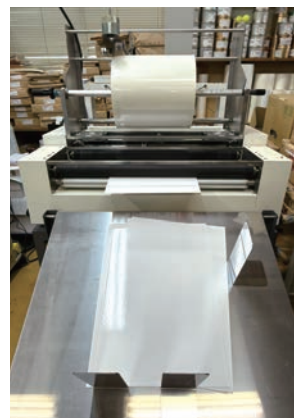
私が何よりも大事にしているのが「信頼関係」です。

藤田さんは「なにがあっても仕事を断るな」というのが口癖で、私もそのマインドを引き継ぎ大事にしてきました。印刷、加工、納期、金額など色々なお困りごとの相談を受けた時に、自社で完結できる仕事に関しては断らず、自社でできないことも「できません」では終わ

らさず、解決できる会社を探して紹介したり、仲介したりと、必ず何らかの答えを出せるように心掛けています。その結果「できない」というのも一つの答えですが、必ず根拠を説明するようにし、納得していただけることが大事だと思います。他にもポイントとして、「断らない」は「言いなりになる」とは違う点です。厳しい納期については、データ入稿や印刷物の持込み、納品のタイミングなどの細かい交渉、その期間二十四時間稼働させて完結できるのか、協力してくれる会社は無いかなどの、色々なことを担当の営業さんや社長さんと一緒に考える。案件が終わった後は「次からはこうしましょ」といった感じで、厳しい金額についても「とりあえず今回はこの金額でいきましょ、言いにくいでしょうけどお客様には値上げの交渉をお願いしますね」といったように、言われた納期や金額で進めるだけではなく、「コミュニケーション（交渉）を重ねることが「言いなりになる」ではなく「断らない」と言える大事な要素のひとつではないでしょうか。

これから

少し精神的なお話（藤田さん直伝）が多い形になりましたが、三宮印刷が存続できているのは、この考え方が土台にあり、高知県の印刷業界とマッチしたからだと思っています。今では、ジャグ



PP加工機 (TORAMI)



ミシン機 (ホリゾン VP-53)



筋入れ機 (ホリゾン CRA-36)



ミシン機 (ホリゾン VP-66 AF)



オンデマンド機 (リコー ProC7210SHT)



オンデマンド機 (コニカ C14000)



オフセット二色機 (GTO-52-2)

第34回 JaGra SPACE-21 全国協議会 愛知名古屋大会に向けて

SPACE-21

愛知名古屋大会実行委員長 愛青会会長

高橋 明人 (㈱高橋紙工所)



今回の大会テーマは、「NEXT GENERATION × 印刷業界Ⅱ」（無限大）です。

印刷業界はいま、大きな変化の真っ只中にあります。デジタル化やAIの進化、環境への意識の高まり、情報発信手段の多様化など、私たちを取り巻く環境は大きく変わりました。これまで当たり前だった「印刷」の形も、これからさらに変わっていくでしょう。しかし私は、こうした変化を「印刷業界の可能性が広がる転機」だと捉えています。

私たちの業界には、長い年月をかけて培ってきた技術があります。品質へのこだわり、ものづくりへの誇り、お客様の想いを形にしてきた経験があります。それらは決して過去のものではありません。新しい技術や新しい発想と組み合わせることで、これまではなかった価値を生み出す力になるはずです。

だからこそ、今回の大会では「NEXT GENERATION」という言葉を大切にしました。

次世代とは、単に若い経営者だけを意

味するものではありません。新しい技術、

新しい価値観、新しい発想、そしてこれからの社会を担っていく若い世代との出会い。その全てが、私たち印刷業界の次の可能性につながると考えています。

その想いから、今回、**名古屋市立芸術高等学校グラフィックアート科**の皆さまとのコラボレーションを企画しました。

私たち印刷会社が持つ経験や技術と、これからの印刷業界を担う若い世代の感性や自由な発想を掛け合わせることで、私たち自身も新しい気付きを得られるのではないかと。そんな期待があります。

高校生の皆さまにとっても、学校で学んでいることが実際の企業や社会とつながり、自分たちのアイデアが一つの形になっていく経験は、きっと大きな意味を持つはずです。

今回の大会企画の根底にあるのは、「未来は受け継ぐものではなく、共に創るもの」という考え方です。

そして「Ⅱ（無限大）」には、一人ひとりの可能性、企業の成長、地域とのつながり、そして全国の仲間との絆を、無限に広げ

ていきたいという想いを込めています。

また、今回の全国協議会は、松谷SPACE21代表幹事にとっても、特別な意味を持つ大会になるのではないかと私は感じています。これまでSPACE21を支えてきた先輩方の想いを受け継ぎながら、新しい時代へ歩みを進めていく。その節目となる大会を、愛知・名古屋で開催できることを大変意義深く感じています。

そして今回、新たに選ばれたSPACE21幹事メンバーとともに、これからのSPACE21をさらに盛り上げていきたいと思っています。

全国各地の仲間と顔を合わせ、語り合い、刺激を受け、新しい挑戦につなげていく。そこにSPACE21という組織の大きな価値があるのだと思います。

印刷業界は、いま新しいステージへ進もうとしています。これまで積み重ねてきたものを大切にしながら、新しい技術、新しい考え方、新しい仲間を受け入れることで、印刷の可能性はさらに広がっていくはずです。

未来は、
一人では創れない。

愛青会 — 45年の歴史を受け継ぎ、
仲間とともに未来を創る



仲間とつながり、次世代と出会い、新たな価値を共に創る。愛知・名古屋から始まる今回の挑戦が、一人ひとりの可能性を結び、印刷業界の未来を無限大へと広げていくきっかけになればと思っています。

11月21日、全国の皆さまと愛知・名古屋でお会いできることを、心から楽しみにしています。

愛青会は、JAGRA愛知の青年部として、2026年9月に創立45周年を迎えました。印刷業界に携わる次世代の経営者や若手リーダーが集い、業種や会社規模を越えて、学び、語り合い、刺激し合う場を大切にしています。

活動は年間8〜10回。印刷業界の繁忙期を考慮しながら、勉強会、会員会社見学、ゴルフコンペ、家族例会など、仕事

だけでは得られない学びや新しい出会いにつながる様々な活動を行っています。時には真剣に業界の未来を語り、時には肩の力を抜いて親睦を深める。そんな「人と人のつながり」こそが、愛青会の大きな魅力です。

愛青会は50歳で卒業を迎える青年部の会です。だからこそ、

限られた時間の中で出会った仲間とのご縁を大切に、一緒に学び、挑戦し、成長することに大きな価値があります。会員一人ひとりが異なる経験、考え方、個性を持っているからこそ、そこから生まれる化学反応が新たな可能性を生み出します。

45年の歩みは、これまで愛青会を築いてきた多くの先輩方の情熱と絆の積み重ねです。その伝統と想いを受け継ぎながら、時代の変化を恐れず、新しい価値を生み出していく。仲間とともに学び、支え合い、印刷業界の未来を切り拓いていく——それが、45年目を迎えた愛青会です。



↑ RICOHにて勉強会



↑ コニカミノルタジャパンにて臨時総会

↓ 令和8年度通常総会
in 日間賀島観光ホテル↑ 愛青会岡本泰終身名誉会長
と共に

↑ 家族例会



↑ 勉強会

↓ 光文堂新春機材展出席



※ JaGra 愛知と合同出席

月刊『グラフィックサービス』899号

■発行日 令和8年10月10日(毎月1回)
■発行人 原田 大輔
■編集人 東海林 正豊
■発行所 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16
電話 03-3667-2271 ファクス 03-3661-9006
ウェブ https://www.jagra.or.jp/



ジャグラは一般財団法人日本情報
経済社会推進協会指定のプライバシー
マーク指定審査機関です

■編集部宛メール edit@jagra.or.jp

◎企画: ジャグラ広報委員会

担当理事 戸来 一裕 岩手/ ㈱興版社

委員長 東海林正豊 秋田/ ㈱東海林印刷

委員 佐藤 愛子 大分/ ㈱クリエイツ.
谷山 和也 東京/ 菁文堂㈱
野口 聡 東京/ アクティブ
三宮 健司 高知/ ㈱三宮印刷
吉田 一城 東京/ ㈱文洋社
小澤孝一郎 山梨/ ㈱オズプリンティング
西谷 毅 東京/ 西谷印刷㈱
藤本 隆志 広島/ ㈱東洋ビジネス
井上 貴寛 福島/ ㈱三共印刷所
西岡 佐記 東京/ ㈱研美社
松谷 勝広 東京/ ㈱松谷メールサービス

◎原稿・編集・校正

田中 良平 阿部奈津子 長野未奈美
笠原賢一郎 賀山 良枝

以上、ジャグラ事務局

◎渉外 田中 良平

◎広告 田中 良平

◎Web 阿部奈津子

◎動画 笠原賢一郎

◎組版 ㈱文洋社(東京支部)

DTP = Adobe CC ほか

フォント = モリサワ OTF / モリサワ BIZ+ ほか



※本誌の一部にユニバーサルデザインフォント
を使用しています

◎製版 / 印刷 ㈱西村謄写堂(高知県支部)

RIP = FUJIFILM WORKFLOW xmf

CTP = Luxel T-6300 (自現:富士フィルム XP-1310R)

刷版 = FUJIFILM SURERIA XP-F

印刷機 = RYOBI 924D

インキ = 東洋インキ

用紙 = 三菱ニューVマットA判 57.5kg

Copyright 2026 JaGra

禁無断引用

※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です

原則、TMや®マークは省略しています

※乱丁/落丁本はお取り替えいたします。

【雑学コラムお題の答え】 翔んで(とんで)埼玉

事務局日誌と今後の予定

最新情報はHPでご確認ください

■9月の事務局日誌

- 1日 Pマーク現地審査(長野)→長野
広報委員会(Web会議)
- 2日 HOPE2026(アクセスサッポロ)(1日目)→原田会長、田中専務、笠原
- 3日 HOPE2026(アクセスサッポロ)(2日目)→原田会長、田中専務、笠原
- 4日 自費出版文化賞最終選考会(吉祥寺東急REIホテル)→原田会長、田中専務
- 7日 正副会長会議(Web会議)
- 8日 会員拡大委員会(Web会議)
- 9日 理事会(本部)
日印産連 9月印刷の月(ホテルニューオータニ東京)
- 10日 Pマーク現地審査(大阪)→田中専務
印刷技術委員会(Web会議)
- 11日 熊本県支部訪問→原田会長、田中専務
Pマーク現地審査(兵庫)→笠原
- 14日 Pマーク現地審査(東京)→田中専務
- 15日 Pマーク現地審査(大阪)→田中専務
- 16日 Pマーク現地審査(大阪)→田中専務
DTPスキルコンテスト委員会(Web会議)
- 17日 日印産連環境顕彰制度WG→田中専務
作品展委員会(Web会議)
- 18日 近畿地協勉強会(兵庫)→田中専務
- 19日 東北青年印刷人連絡協議会岩手大会(盛岡)→岡本理事
- 24日 新コンテストWG(Web会議)
- 25日 Pマーク現地審査(神奈川)→長野
業態進化委員会(Web会議)
- 28日 教育研究支援委員会(Web会議)
- 30日 Pマーク審査会・個人情報保護委員会(本部)

■10月のスケジュール

- 1日 広報委員会(Web会議)
- 2日 Pマーク現地審査(栃木)→笠原
- 5日 SPACE-21幹事会(Web会議)
- 6日 日印産連広報部会
GP推進部会
- 7日 日印産連ステコミ→原田会長、田中専務
- 8日 作品展委員会(Web会議)
- 13日 Pマーク現地審査(大阪)→田中専務
会員拡大委員会(Web会議)
- 14日 日印産連GP大賞表彰式
Pマーク現地審査(大阪)→田中専務
印刷技術委員会(Web会議)
- 15日 全日本印刷文化典(沖縄)(1日目)→原田会長
- 16日 全日本印刷文化典(沖縄)(2日目)→原田会長
- 17日 全日本印刷文化典(沖縄)(3日目)→原田会長
ぼうさいこくたい2026in鳥取(鳥取)
- 18日 ぼうさいこくたい2026in鳥取(鳥取)
- 20日 Pマーク現地審査(徳島)→田中専務、笠原
- 21日 DTPスキルコンテスト委員会(Web会議)
- 24日 関東地方協議会勉強会(ニッケイビル)
- 26日 正副会長会議(本部)
新年度事業方針発表会(本部)
賛助会員懇談会

■11月のスケジュール

- 5日 広報委員会(本部)
- 6日 理事会・全国協議会・懇親会(KFCホール、第一ホテル両国)(1日目)
- 7日 全国協議会(KFCホール)(2日目)
自費出版文化賞表彰式(アルカディア市ヶ谷)
- 10日 Pマーク審査会・個人情報保護委員会(本部)
- 11日 Pマーク現地審査(秋田)→田中専務
印刷技術委員会(Web会議)
- 12日 Pマーク現地審査(秋田)→田中専務
- 17日 日印機協総会(喜山倶楽部)→田中専務
- 20日 GCJ全国大会→原田会長、田中専務
- 21日 SPACE-21全国協議会愛知名古屋大会→原田会長、田中専務、笠原

事・務・局・便・り

一歳になる子どもが、この一ヶ月であれこれと一気にできるようになりました。気づけば鼻歌を歌いながら自分の足でよちよちと歩いたり。かと思えば、スプーンを握って自分で食べようとしたり、何でも「自分でやりたい」という気持ちが芽生えてきたようで、うれしい気持ちの反面、少しだけ寂しい気持ちになったり……。

外を歩けば、道行く方が笑顔で声をかけてくださることも多く、子どもを通して世の中の優しさに触れる毎日でもあります。

この秋は子どものペースでゆっくり歩きながら、たくさんお散歩をして楽しみたいと思います。(長野)

※「事務局便り」は本部事務局員が交替で執筆しています

NEWS 業界の動き

業界の動き

HOPE2026「ジャンル」出展

原田会長、岡本理事が
ディスカッション

HOPE実行委員会が主催する「HOPE 2026 (HOKKAIDO Print Expo)」が9月2日、3日、北海道札幌市のアクセスサッポロで開催されました。「DX共創・デジタル革命―印刷は儲かるビジネス、紙メディアの魅力をデザインする―」をテーマにした同展には、2日間で2625人が来場しました。

会場にはジャグラもブースを設け、会員拡大を中心に、10月21日に札幌市中央区の赤れんが庁舎でジャグラ北海道支部が主催する「印刷会社の未来をつくるブルーオーシャン



HOPE パネルディスカッション



HOPE 開会式のテーブルカット

勉強会 in 札幌」をPRしました。
このほか、主催者企画セミナーで初日に、ジャグラの原田会長、全日本印刷工業組合連合会の瀬田章弘会長、全日本製本工業組合の田中眞文会長、日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会の錦山慎太郎会長をパネラーに、ジャグラの岡本泰理事(前会長)がモデレータを務め、「印刷業界4団体会長が本音と覚悟を語る―今、印刷業界に求められていること・その導線をどう考えるのか―」を演題にパネルディスカッションが行われました。

印刷を「デザインする」おかしな印刷展―江戸川区と東京芸大が開催

江戸川区と東京藝術大学による連携プロジェクトの一環として、7月11日から8月31日まで、東京都江戸川区の芸術拠点「アーとモモンズ Sumi.Co(すみっこ)」で企画展「おかしな印刷展」が開催されました。

会場では、東京藝術大学デザイン科ゲスト講師であり、デザイン・印刷スタジオ

「ALBATRO DESIGN」の代表を務める猪飼俊介氏が、アートワークおよび印刷ディレクションを手掛けた作品を中心に展示されました。作品はいずれも通常の印刷にとらわれず、活版印刷、UV印刷、リソグラフ、オフセット印刷、箔押しなどの特殊印刷を用いながら技法や用途をあえて外した表現で作成しました。

また、長野県松本市の藤原印刷の協力により制作された特色5色のオフセット印刷ポスターや、「ヤレ」が確認できる工程資料、実際に使用されている活版印刷用



おかしな印刷展

亜鉛版が並びました。活版印刷に積層UV印刷を重ねた立体アート作品「PRINCE OF DARK」や、紙の打抜き・スジ押し加工を施した正十二面体の立体作品「POLY」なども展示されました。物販では1回300円で購入可能な「活版カード自動販売機」が設置され、オリジナルの活版印刷カードが販売されました。

さらに、会期中の8月22日には、関連イベントとして猪飼俊介氏によるトークショー「特殊印刷表現と「デザイン概説」が開催されました。

印刷革新会

HOPE展で発展的解散
約5年の活動に区切り

クイックス、正文舎、佐川印刷と印刷関連商社8社で構成する印刷革新会はHOPE展をもって発展的に解散することを発表しました。デジタル印刷の生産現場の自動化、効率化をテーマに、技術研究と情報発信してきたが、一定の役割を終えたとの判断から今回解散となりました。

RMGT-CSPI

ともに創る印刷の未来



RMGT-CSPIが
SDGs達成をアシスト

印刷会社のSDGs達成のためのソリューションを提案、具現化するRMGT-CSPI。
各分野の企業が連携し、お客さまに寄り添いながら課題を解決・サポートします。

